

## 事例研究報告

**小学部高学年児童における  
給食のおかわりを要求する場面で  
適切に相手の注意を引く行動の指導**

## 児童の実態

- ・知的障がい・自閉症スペクトラム・広汎性発達障がい。
- ・紙を破ることと、音楽（聴くこと・動画見ること）が好き。
- ・掌への手応えを感じるのが好きなためか、自分の肘や、教員の肘に掌底突きをすることがある。
- ・自分から要求を伝えることがあまり見られない。

## 保護者の願い

「将来的には、福祉的就労をして、家族と一緒に暮らしたい。」

「言葉やカードでコミュニケーションが取れるようになってほしい。」

## 教員の願い

「あまり自分から主張することがないので、自分の意思表示をできるようにしたい。」

# 指導目標①

給食のおかわりについて、カードを教員に渡して伝えることができる。

## 指導の手続き

- ①おかわりカードを机上に提示する。
- ②児童の近くに立ち、児童がカードを教員に渡しておかわりしたいことを伝えに来るのを待つ。
- ③伝えることができたなら、おかわりをすぐに渡すとともに称賛する。  
※カードを使わなかったときは、指差しなどでカードを使うように促す。

# 環境の設定①



一食分を三枚のプレートに等分して提示。  
写真は、プレート1枚の量。



机上に「おかわり」カードと  
「もういりません」カードを置く。  
※「もういりません」は、後に廃止。



おかわり  
カード



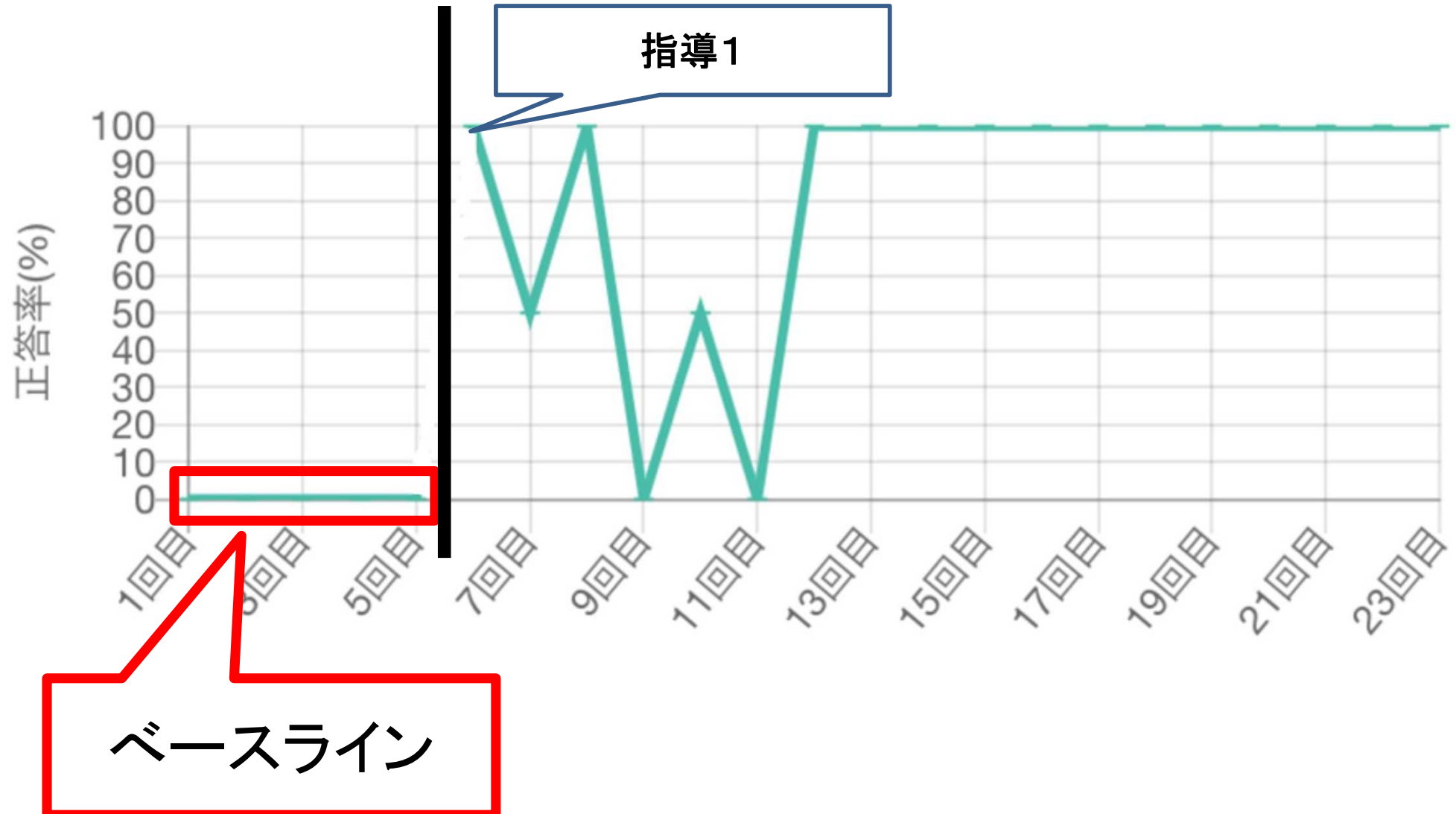
もう  
いりません  
カード

## 記録方法①

指導目標	給食のおかわりについて、カードを教員に渡して伝えることができる。
+	自分で伝えることができた。
P	指差しなどの支援を受けて、伝えることができた。
—	伝えることができなかった。

# 記録①(10月2日～11月17日)

給食のおかわりについて、カードを教員に渡して伝えることができる。(1回の試行は2～4回程度)



# 考察①

- ・カードを取り入れる前は、指差しでおかわりがほしいことを伝えたり、教室後方に置いてあったおかわりをのぞき込んだりしていた。(ベースライン時)
  - ・カードを渡す行動は、下の①を少し前(7月頃)からやっていたこともあり受け入れやすかったと考えられる。  
また、おかわりカードと同時期に②も始めたので同じような行動の回数が増えて習得しやすかったと思われる。
- ① 自立課題終了後に「できました」カードを教員に渡す。
  - ② 新聞ちぎり遊びの時に「新聞ください」カードを教員に渡す。



## アドバイザーからの助言

- ・相手によってカードを出したり、お皿を出したりするようだが、要求が伝われば良いので、カードでもお皿でも持ってくるのができたらO.K.としてよい。
- ・教員が近くにいる時と、離れている時とで、児童の反応が変わることがあるので統一した方がよい。
- ・他の場面で肩をトントンたたいて要求等を伝える練習をしているのであれば、それをこの場面でも練習してみてください。
- ・将来的には、自分で食べたいもの、食べたくないものを選んで伝えることができるように見据えておく。

# 助言を受けての見直し

- ・目標を「相手の注意を引いてから、おかわりの要求を伝える」ことに変更。

- ・「もういりません」カードはなくす。

- ・カードでも、お皿でも持ってこれたらO.K.とする。

- ・自立課題学習後、教員の肩をトントンたたいてから「できました」カードを渡す練習を始めていたので、これを活かすことにした。

具体的は、給食時の「おかわり」カードと新聞ちぎり遊び時の「新聞ください」カードの時にも、教員の肩をトントンたたいて「相手の注意を引いてから要求を伝える」ことにした。

## 指導目標②

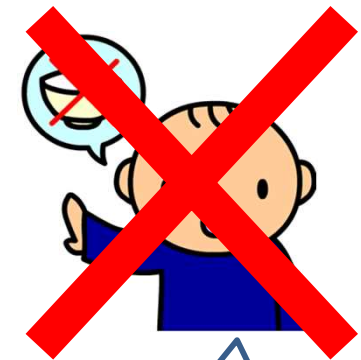
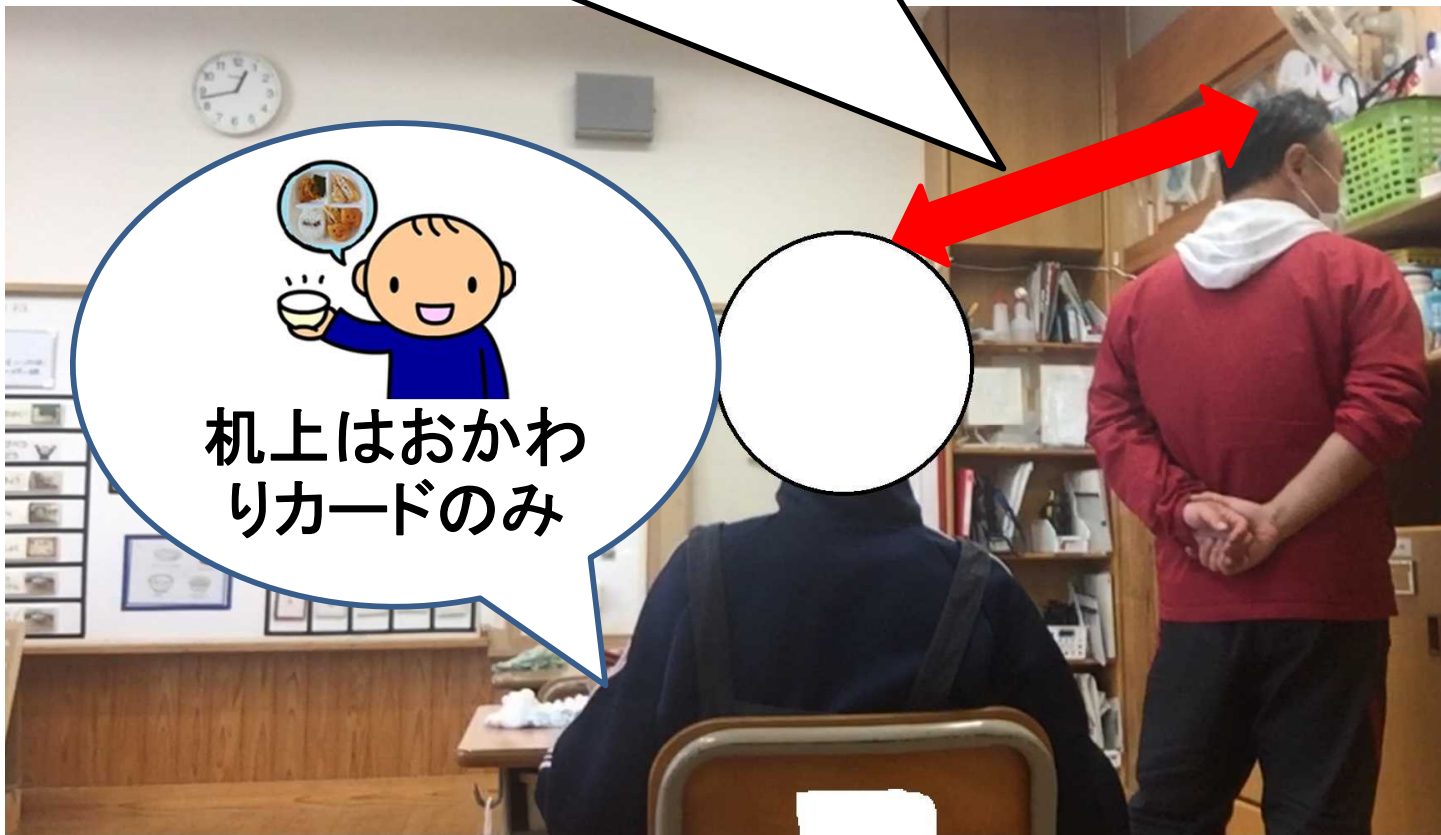
離れている教員の所に行き、肩をトントンたたいてから、カードを渡すことができる。

## 指導の手続き

- ①おかわりカードを机上に提示する。
- ②児童から1～2m程度離れて立ち、児童が教員の肩をトントンたたいてからカードを渡しに来るのを待つ。  
(カードではなく、お皿を持ってきても可とする。)
- ③肩をトントンたたいてカードを渡すことができたなら、すぐにおかわりを渡すとともに称賛する。(肩をたたくことができない場合は、教員が肩をたたく仕草を見せる。)

## 環境の設定②

児童から1～2m程度離れて距離を取り、  
背を向ける。

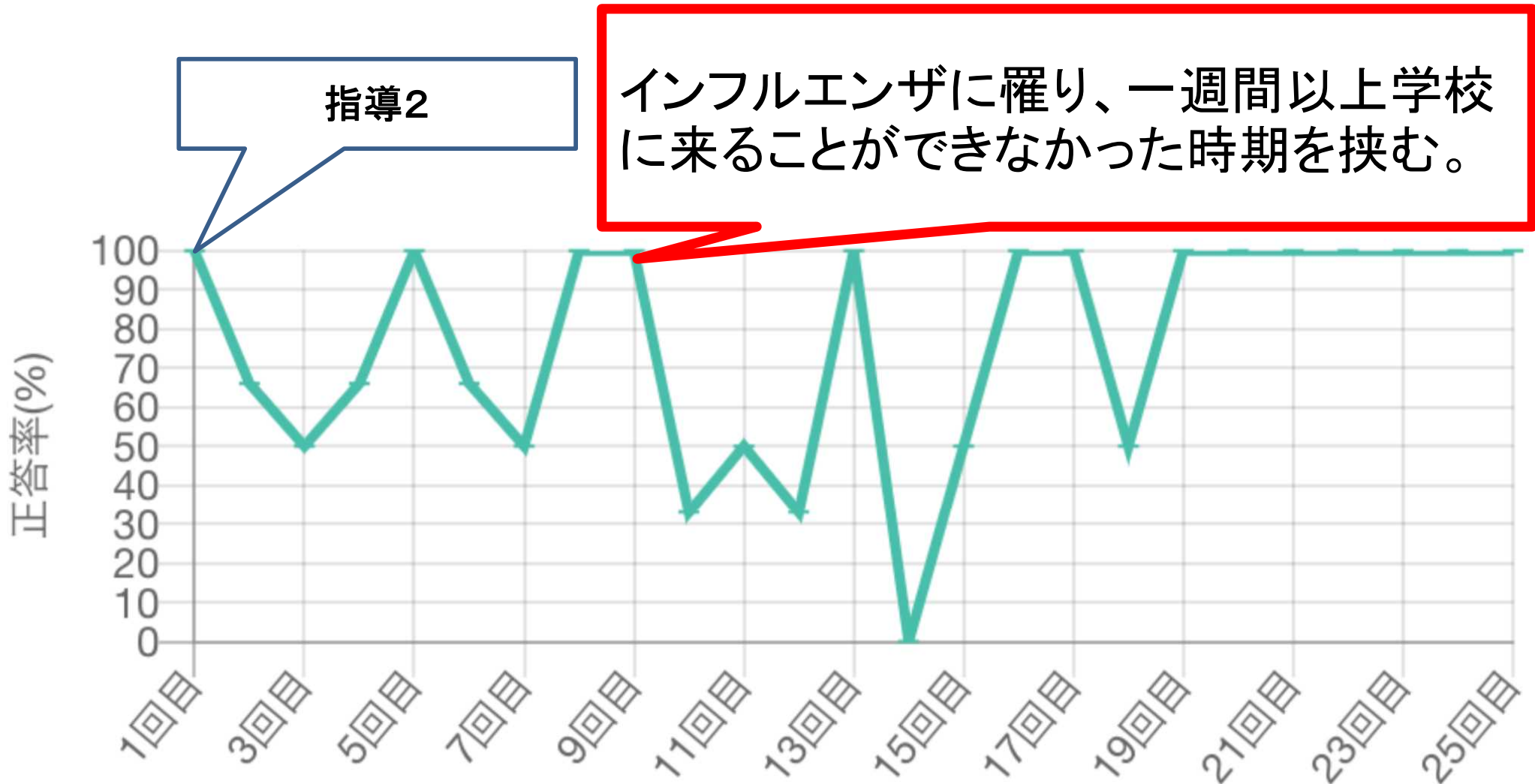


## 記録方法②

指導目標	離れている教員の所に行き、肩をトントンたたいてから、カードを渡すことができる。
+	自分で相手の肩をトントンたたくことができた。
P	ジェスチャー等の支援を受けて、相手の肩をトントンたたくことができた。
—	相手の肩をトントンたたくことができなかった。

## 記録②(11月20日~1月19日)

離れている教員の所に行き、肩をトントンたたいてから、カードを渡すことができる。



## 考察②

- ・比較的早い段階から、相手の肩をトントン叩くことができたのは、自立課題終了後の「できました」カードや新聞ちぎり遊びの「新聞ください」カードで同じように練習する場面が多かったからだと思われる。最近では、カード無しで教員の肩を叩いて用事を伝える(ちぎった新聞と一緒に片付けてほしいと伝える)ことが数回あった。
- ・児童の食欲が増してきていたこともあり、「おかわり」の要求を指導目標としたのは、学習する機会として絶好の機会だったと考えられる。
- ・10回目以降、プロンプトが必要な場面も見られたが、これは8回目から9回目にかけて、児童がインフルエンザに罹ったことで、一週間以上支援活動ができなかったからだと思われる。

# ここが成功のポイント

- ・児童の実態から「要求」する場面を見出したことで、学習に必然性を作ることができたこと。
- ・一緒に指導に当たる教員と目標や取り組みについて意識を共有し、指導方法を統一できたこと。
- ・アドバイザーはもちろん、その他の先生方から貴重な意見を頂くことができたこと。